飯豊天皇陵にみられる石材の石種と採石地

奥田　尚

平成17年度に実施された整備工事に伴う事前調査時に観察された石材の石種とその採石推定地について述べる。当陵が築造された時の遺構とされる石材については観察できなかったが、葺石の転落石と推定される石材、石積遺構の石材、大正元年に実施された護岸に使用されている石材を観察することができた。第３トレンチで検出された石積遺構を主にして、使用されている石材について述べる。

1　石積遺構の石材（第24図）

石積遺構の石材には、アプライト・石英閃緑岩Ａ・石英閃緑岩Ｂ・石英閃緑岩Ｃ・閃緑岩・斑糲岩・片麻状黒雲母花崗岩・流紋岩質火山角礫岩と瓦が使用されている。石種の特徴と推定される採石地について述べる。

アプライト：色は灰白色で、粒形が角である。石英と長石が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が２～４mm、量が多い。長石は灰白色、粒径が２～６mm、量が多い。

このような岩相の石は当陵の西北方の葛城市太田付近の川原にみられる石に似ている。

石英閃緑岩Ａ：色は灰白色で、粒形が角である。石英・長石・黒雲母・角閃石が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が２～５mm、量が僅かである。長石は灰白色、粒径が５～15mm、量が多い。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が４～８mm、量が中である。角閃石は黒色、柱状で、粒径が２～10mm、量が僅かである。

このような岩相の石は当陵の西方にある葛城山に分布する石英閃緑岩の岩相の一部に似ている。葛城山の山麓で採石されたと推定される。

石英閃緑岩Ｂ：色は灰白色で、粒形が亜角である。石英・長石・黒雲母・角閃石が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が３～６mm、量が僅かである。長石は灰白色、粒径が６～15mm、量が多い。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が５～７mm、量が僅かである。角閃石は黒色、柱状で、粒径が５～15mm、量が中である。

このような岩相の石は当陵の西方にある葛城山に分布する石英閃緑岩の岩相の一部に似ている。葛城山の山麓で採石されたと推定される。

石英閃緑岩Ｃ：色は灰白色で、粒形が角である。石英・長石・黒雲母・角閃石が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が３～５mm、量が中である。長石は灰白色、粒径が５～10mm、量が多い。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が５～８mm、量が中である。角閃石は黒色、柱状で、粒径が５～12mm、量が僅かである。

このような岩相の石は当陵の西方にある葛城山に分布する石英閃緑岩の岩相の一部に似ている。葛城山の山麓で採石されたと推定される。

閃緑岩：色は灰色で、粒形が亜円である。長石・黒雲母・角閃石が噛み合っている。長石は灰白色、粒径が２～４mm、量が多い。黒雲母は黒色、粒状で、粒径が１～２mm、量が中である。角閃石は黒色、粒径が１～３mm、量が僅かである。

このような岩相の石は当陵の北西方にある岩橋山に分布する閃緑岩の岩相の一部に似ている。葛城市竹内付近の川原で採石されたと推定される。

斑糲岩：色は灰緑色で、粒形が亜角である。長石・角閃石・輝石が噛み合っている。長石は灰白色、粒径が２～４mm、量が多い。角閃石は黒色、粒径が１～３mm、量が多い。輝石は暗緑色、粒径が１～４mm、量が僅かである。

このような岩相の石は当陵の北西方にある岩橋山に分布する斑糲岩の岩相の一部に似ている。葛城市竹内付近の川原で採石されたと推定される。

片麻状黒雲母花崗岩：色は灰白色で、粒形が亜角である。顕著な片麻状を呈し、縞模様をなす。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が２～４mm、量が中である。長石は灰白色、粒径が２～６mm、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が１～４mm、量が中である。

このような岩相の石は当陵の北西方にある岩橋山から竹内峠にかけて分布する片麻状黒雲母花崗岩の岩相の一部に似ている。葛城市竹内付近の川原で採石されたと推定される。

流紋岩質火山角礫岩：色は灰白色で、粒形が亜角である。構成粒は流紋岩の角礫からなる。流紋岩は灰白色、暗灰色で、粒径が２～40mm、量が非常に多く、石基がガラス質である。基質は灰白色で、緻密である。

このような岩相の石は当陵の北西方にある二上山雌岳に分布する雌岳火山岩の岩相の一部に似ている。採石地としては葛城市新在家付近の谷が推定される。

以上のように石積遺構に使用されている石材は、瓦を除けば、葛城山東麓で採取された石が多く、岩橋山から二上山にかけての付近で採石された石が僅かに含まれている。

２　葺石と推定される石材

第４・10トレンチで出土した人頭大の石は、粒形が亜角で、石種が石英閃緑岩Ａと石英閃緑岩Ｃである。観察した個数は十数個であるが、全てが葛城山の山麓で採取されたと推定される石である。

３　大正元年の護岸の石材

大正元年に実施された護岸工事で、杭列の内側上面に石材が敷かれている。石材は粒形が亜角～亜円、粒径が10～15cm、河原石様である。石種は石英閃緑岩Ａ・石英閃緑岩Ｂ・石英閃緑岩Ｃが多く、アプライト・閃緑岩・片麻状黒雲母花崗岩は稀である。石材の採石は葛城山から岩橋山にかけての山麓で行われたと推定される。

第24図　埴口丘陵　第３トレンチ石種分布図（1/30）